令和３年度 大阪府立茨木工科高等学校(全日制の課程)
第１回 学校運営協議会
令和３年７月30日（金）
書面開催

議事録

1.　参加者

運営委員
- 本津 茂樹(近畿大学 名誉教授)
- 野村 明仁(茨木市立西中学校 校長)
- 諏訪 年信(茨陵会 理事)
- 中薗 ひとみ(大阪府立茨木工科高等学校 元 PTA 会長)
- 丸尾 弘子(大阪府立茨木工科高等学校 PTA 会長)
- 俵 比呂志(春日地区自治連合会長)

事務局
- 杉山 裕二(大阪府立茨木工科高等学校 校長)
- 井上 直人(大阪府立茨木工科高等学校 教頭・事務局長)
- 龍 忠男(大阪府立茨木工科高等学校 首席)
- 三好 賢治(大阪府立茨木工科高等学校 首席)
- 橋爪 勇一郎(大阪府立茨木工科高等学校 首席　兼　工学系系長)
- 岡 和憲(大阪府立茨木工科高等学校 教務部長)
- 東郷 真明(大阪府立茨木工科高等学校 生活指導部長)
- 川地 良明(大阪府立茨木工科高等学校 進路指導部長)

２.令和３年度 本校教育活動について

2-(1).　議題「令和３年度 学校経営計画」(校長より)

Q&A

Q：中期的目標２項２の(3)で触れておられる「実習中の事故ゼロ」について、過去の発生頻度、無事故の継続期間についてご教示願いたい。

A：専門科の実習について、無事故の継続期間としては、保健室に行き消毒等で治るケガはありましたが、本校から病院に行く事故は、確認できる限りでは、平成５年から30年間は発生しておりません。しかし、２年前の夏休みに他校で旋盤技能検定を受験した際に、緊張から不注意で手を切るケガをしてしまい、病院に行った生徒がいました。また、実技科目の体育の授業では、２年前の４月末、ソフトボールの授業中に、バットを振ると同時に、バットが後ろの生徒の顔面にあたるという事故がありました。今後、企業のように、無事故の継続期間を掲示するなど、生徒へも周知することも、職業観育成に必要な安全教育の一環として考えてい

きたい。

Q：R2の第3回運営協議会で指摘した、「めざす学校像」に高大連携重点校としての人材育成が入ったことは評価できる。今後は工科高校に府が求めている、第4次産業革命に関わるAIやIoTなどの教育に関する方向性を示すことが必要と思われる。

A：令和4年度より、IoT技術者育成の為の実習を開始する予定です。中学校向けのチラシを作成し、パンフレットと共に中学校に10月1日に郵送したところです。さらに中学校訪問においても宣伝していく予定です。

Q：工学系大学進学専科に関して、進学率100%を目標とするのは良いが、今年度の入試において、他の高大連携重点校の今宮・淀川工科は志願者数が募集定員を越えているが、茨木工科のみが定員に達していない。今後の志願者増への対策が望まれる。

A：工学系の志願者増の為の対策は、日々、PR委員長や工学系長を中心に考えています。対策の1つとしては、「北摂地域の大学進学が、普通科・私学志向なので、それに対抗してPRする」という対策です。さらに他の対策としては、大学受験指導の充実です。これは、令和2年度に淀川工科、今宮工科の工学系を調査した結果、放課後や長期休業期間中の補習が、他2校より少なかったことを受け、補習の期間を増やしました。PRに関しては、PRの手法をよく検討した上で、中学校訪問をする予定です。また校長自らも中学校訪問をしＰＲしたいと考えています。

2-(2).議題「令和2年度　資格取得状況」（龍　忠男　首席）

Q&A

Q：計算技術検定の合格者増加やジュニアマイスター顕彰取得者増加は素晴らしいと感じます。そこに至るご指導の賜物だと思いました。一方で危険物取扱者乙4類の合格率が格段に低下している理由をご教示願いたい。

A：緊急事態宣言の発令により2か月間休校となり、危険物取扱者試験自体が中止、延期となり、受験できる回数が減ったため。また同時に、土曜授業や放課後の補習が多くなったので、例年、放課後に実施していた講習会を実施する時間も少なくなったため。

Q：国家資格および試験・検定において、令和元年より2年度は受験者数および合格者数は大きく減少している。その理由についての分析と令和3年度での対策が示されていない。

A：コロナ禍で実施しない資格があり、受験回数がなくなったことも理由の一つである。また、同時に、令和2年度は4月~5月末の2か月間の休校があったので、①学校全体として学習保障の為、年度当初の資格取得の動機づけの時間を十分確保できなかった。②放課後の補充授業や、土曜授業が増え、資格取得の講習時間の確保が難しくなった。という2つの理由も考えられる。

　令和3年度については、現状、ほとんど一昨年と同様の指導ができています。また、10月には、生徒一人一台端末も配付しましたので、今後、たとえ休校になっても、オンライン授業で対応できるように計画をしていきます。

Q：ジュニアマイスター顕彰取得者が令和2年度は電気系のみである。機械系はじめ他の系に取

得者が出なかった理由を知りたい。

A：ジュニアマイスター顕彰取得のためには得点の高い資格取得や大会入賞が必要であるが、高得点に設定されている資格でも、第１種電気工事士取得は、電気系２年生の第二種電気工事士全員受験の指導からの、つながりもあり、取得しやすいということが影響している。その他、高得点に設定されている。機械系の関係の２級ボイラー技士や、環境化学システム系関係の甲種消防設備士などがあるが、日ごろの授業からのつながりが少ない分、受験希望者がほぼいない状況である。大会入賞については、ものづくりコンテストなどの大会や競技会が、コロナ禍において、中止となったことも影響している。

Q：コロナ禍の中だから仕方ないかな、でも、工業系の良さが減少してると思う

A：今後とも、工業系の良さの一つが、資格取得ということを意識していきたい。

Q：なるべく多くの卒業生に取得してもらいたい。

A：資格を取得した卒業生を、できるだけ多く社会に輩出することが、北摂唯一の工科高校として社会に求められていることだと考えています。今後、今まで以上に、生徒一人ひとりに対して、将来を見据えた「動機付け」を行うとともに、「資格取得」までの、きめ細かい粘り強い教育をしてまいります。

4-(3).議題「令和２年度　PR 活動報告」（三好　賢治　首席）

Q&A

Q：課業時間以外にも PR 活動をいただき、感謝いたします。「ものづくり」に魅力を感じる啓蒙活動を引続きお願い申し上げます。

A：ありがとうございます。茨木工科高校の良さをＰＲできるように引きつづき取り組んでまいります。

Q：令和２年度において、多くの PR 活動をされたことは、大いに評価できる。しかしながら、(1)で述べた通り、他の高大連携重点校の工学系大学進学専科の志願者数は募集定員を越えているが、茨木工科のみが定員に達していない。工学系大学進学専科の入学生も 78.6%が PR 行事に参加した生徒と報告されているので、このような活動結果から令和３年度の PR 活動の方針をお聞かせいただきたい。

A：　令和３年度入学者選抜は、近隣の高校ならびに他の工科高校が例年に比べ、軒並み定員を割っており、中学校卒業者数の減少や、幾つかの高校に志願者が集中するなど、複数の原因が考えられます。

　工学系設置の工科高校２校のうち、今宮工科は、大阪南部や大阪市内の工業を学びたい進学志向のある生徒を受け入れ、淀川工科は全国屈指のレベルの吹奏楽部に取り組みたい生徒で、大学に進学したい志願者数による募集定員を満たしていると思われます。

　北摂地域は以前から進学志向が強く全体的に普通科志向が強めの地域であり、普通科は進学、工業高校は就職、と住み分けがなされている傾向があり、進学志向の生徒は普通科高校を受験することがほとんどです。

　本校は工科高校推薦枠など利用して４年制大学の理工系学部に進学することができ、本校

と同程度あるいは少し上の学力の普通科高校よりも、大学進学が容易となります。その辺りの学力の進学志向のある中学生に対して、そこの強みをしっかりアピールし、工学系の志願者増につなげていきたいと考えております。具体的にはホームページの充実・工学系に特化した中学校訪問・工学系に特化した学校説明会・郊外の説明会・中学校への出前授業、さらには塾訪問という PR を行っていきたいと考えております。

昨年度、学校 PR 行事に参加していただいた方には、工学系の内容が伝わり、その結果、78.6%の入学者につながっていると思われます。本校は、工業高校ですので、就職や資格取得が目的で PR 行事に参加されている方が多いのですが、PR 行事に参加して、初めて工学系のことを知る方も少なからずいます。それらの方に、工学系を知っていただき、工学系の志願者数を増やしていきたいと考えております。

Q：出席者に対して、受験数が少ないのは、何か足りない物があるのでは？

A：学校 PR 行事は、中学 3 年生および保護者向けに、（実習体験を除いて）人数制限なく自由に参加していただけるようにしています。少しでも興味があったら参加してくださいと呼びかけていますので、他校を受験する予定でも、興味本位や友達の付き添いで参加される方もいると思われます。これらの統計は、今回初めて取ったものですので、今年度も同様に統計を取り、比較して妥当なものかどうか分析し、傾向や原因を見極めていきたいと思います。

4-(4). 議題「令和 3 年度工学系大学連携授業年間計画表」（橋爪　勇一郎　首席兼工学系長）

Q&A

Q：コロナ禍で年度当初の計画通りに進行しないことが考えられますが、無理のない範囲で宜しくお願い致します。

A：昨年度ほどではありませんが、今年度もコロナ禍で計画通りに進行しない場合もありました。クラス全員を団体で大学見学に連れていくことができなくなった場合は、夏季休業中の課題として、自主的にオープンキャンバスに参加し、レポートを提出させました。また、今年度新たに、アポイントメントにとって福知山公立大学から出張講義を本校にて実施していただきました。いずれにしても、生徒たちにとって、無理のない範囲でさせていただいております。

Q：簡単でいいので、学年ごとの夏期および冬期特別演習の内容をお教えいただきたい。また、卒業までに必要な修得単位が 3 単位/3 年ということなので、大学連携授業と単位認定の関係もお教えいただきたい。1 年間で多くの連携授業を受講して 1 単位では生徒のモチベーションが下がらないのか。教育課程で単位数が決まっているのでどうすることもできないことだが、生徒からの不満はないのか。

A：夏期・冬期特別講習の内容については英語・数学・物理・理工化学の各担当者に一任していますが、主に授業のフォローや大学入試問題を演習・解説しています。大学連携授業については規定の時間数出席していれば単位認定となります。大学連携授業については、大学進学を考えるうえで大学見学や基礎学力の向上は必要不可欠であることを日常的に伝えているためモチベーションが下がるなどの様子は見受けられません。

4-(5).議題「令和３年度工学系新入生入学理由アンケート」（橋爪勇一郎首席兼工学系長）

Q&A

Q：工学系の新入生にアンケートを実施されたことは評価できる。大学進学なら普通科でよいので、工業高校から大学に進学するメリットを十分に伝える必要があると思う。アンケートに対する「考察」のところで書かれていることは、その通りだと思う。しかし、アンケート結果からみて、生徒はそれほど深く進学について考えていないということもわかる。志願者増については、「機械や電気、コンピューター、モノづくりについて長い期間勉強したい人は工科高校に入ってから理工系の大学に進学する方がいいよ」程度がよいのかもしれません。

A：実は、令和３年度合格の工学系の生徒は、今までで一番、入試成績が良かったので、本校工学系を受験した理由を調べれば、それがPR材料になるのではと考え、アンケートをさせていただきました。ご指摘どおり「工業高校から大学に進学するメリット」を数多く考えて、PR材料にするべきだと考えます。また、「工業の専門技術やモノづくりを高校生から大学へと、長く勉強したい人は、本校の方がいい」というPR方法については、検討させていただきます。

Q：この高校のここが良いって返答があまりない…様に思う。

A：入学理由のみのアンケートであり、入学当初に実施したので、本校のことを知らなかったのかも知れません。アンケート形式や実施時期などを検討していきながら、本校工学系のことが分かるようなＰＲ方法も考えていきたいと思います。

Q：（今後のPRについて）本当に大切だと思うので、良さを頑張って伝えてほしい。

A：PRが大切だと思います。良さが伝わるように精進いたします。

2-(6).議題「令和３年度入学者選抜」（岡　和憲　教務部長）

Q&A

Q：志願者数、合格者数だけでなく、このような入試資料には定員（募集人数）の明示が必要。おそらく定員もある期で変わったと思う。

A：募集人数　総合募集の専科　175名　（35×5クラス）　大学進学専科35名です。今後は明示させていただきます。

Q：書面開催の欠点でもあるが、ただ資料を見せるだけでなく、今年度の入試に対する評価を添付してほしい。情報不足で意見の述べようがない。総合募集ではじめて倍率が1.0を切ったのはなぜか。大学進学専科では著しく倍率が0.4と低下した理由が知りたい。この数値からみれば、本校が危機的状況であるかのように見える。

A：コロナ禍のなか、公立高校のほとんどが、オンライン授業ができる体制が整備されていなかったことの不安などから、私学への受験生が増加したためと思われる。また、全工科高校が定員割れということから、工科高校離れが影響していると考えられる。

2-(7).議題「令和３年度 行事予定」(岡　和憲 教務部長)

Q&A

Q：創立 60 周年事業についての行事予定が知りたい。

A：令和４年度中に 60 周年記念誌を配布する予定です。

Q：貴重な高校生活の中で、コロナ禍により、例年なら、体験や経験出来る物が、出来ず、工業高校の良さが半減している感じがする。

A：工業高校の良さは、工業の実習・ものづくりの体験だと思いますが、授業における実習・ものづくりに関しては、令和３年度はコロナ禍でなかった一昨年どおりです。ただ、行事予定にはない、「ものづくり」をする文化系クラブについては、緊急事態宣言により、放課後の活動時間が制限されたり、「ものづくり」の大会が中止されたりと、半減しているかも知れません。

一方、各系の資格検定や大学連携やものづくりの大会も、コロナ禍で中止もありましたが、令和３年度は、令和２年度よりも多く実施されており、半減まではいかないと思います。

工業高校の良さに相当するものではありませんが、学校行事の体育祭や文化祭や遠足については、やはり、コロナ禍の状況により、中止したり形態を変更して実施するしかない現状です。

今後、令和４年度の行事予定を計画しますが、やはり生徒の安心・安全を第一にしながら、最大限、充実した体験・豊かな経験を実施する教育活動を計画していきます。

2-(8).議題「令和３年度 生活指導について」　(東郷　真明　生活指導部長)

Q&A

Q：３項「交通安全指導」について、長期休暇前に必ず警察署などが発行している啓蒙チラシなどを配布する等”加害者”にしない活動を地道にしていただきますようお願いいたします。

A：啓蒙チラシは各外部機関からいただいた分は、全て配付しております。また、長期休暇前には、教育庁の指示のもと「〇休みの過ごし方」という配付資料の中に、「交通安全指導」の内容もいれさせていただいています。

Q：生活指導における先生方の取り組みに、頭が下がる思いです。遅刻者はじめ指導を受ける生徒も毎年減少しており、大いに評価できる。生徒の「社会性の低下」、「自律性の低下」が目立ってきているので、益々の指導強化が必要と思われる。そのためには教員間での指導方針や考え方の統一が必要不可欠と思われるので、今後引き続き一丸となった指導を期待する。

A：今年度も、教員一同、一致団結して指導をしていきます。

Q：２年生のこの時期の遅刻数が、昨年度と変わらず、残念です。学校にも慣れて、中弛みが見えます。減らすのではなく、させないのも大事かと思う。仕事に遅刻は厳禁でしょ

A：その通りです。中弛みに対しての指導に力を入れさせていただきます。

Q：今後の課題として、交通ルール・マナーを指導とあげて頂いているので、しっかり取り組んで頂きたいと思います。

A：指導不足を解消するべく、しっかりと取り組んでまいります。

Q：茨木駅までの道、なるべく道いっぱいでなく２列位で歩いてほしい。

A：承知しました。JR 茨木駅までの道は一つだけだと思いますので、交通マナーの指導として、今後、強化してまいります。

2-(9).議題「令和３年度 進路指導部」　(川地　良明　進路指導部長)

Q&A

Q：資料を見せるだけでなく、この資料の説明文がないと、情報不足で意見の述べようがない。ただ、14 期で求人企業数は増加しているのに内定率が下がった理由は何だったでしょうか？また、現状からみて今年の求人企業数の動向はどうなっていますか。

Ā：企業から不合格理由を聞くと、基本的に、受験企業とのミスマッチや、面接での失敗、基礎学力不足が理由です。そのために、高校３年間、学校全体で日々指導をしています。

しかし、求人数が 10 倍程度となった今、大企業の求人が余ってしまい、大企業が求める人材のレベルに満たさない生徒が受験をすることになり、当然、不合格が多くなっている現状です。

結局、生徒全員に対して「基礎学力」を「面接力」の育成を強化し、底上げをしなければならないと考えております。そのために、今の２年生からの新たな指導を検討しています。

また、今年の求人企業数は、昨年度とほぼ同じの約９６０社でした。

Q：15 期においても、工学系で専門学校希望が５名もいることに疑問を感じます。進路指導担当者はどのような指導をされるつもりでしょうか。入学時のアドミッションポリシーが十分伝えられていないのでしょうか。工学系大学進学専科では４年生大学への進学率で評価すべきと考えますので、大きな問題です。

Ā：毎年、工学系から、専門学校へ進学する生徒が数名います。理由は様々ですが、まずは、学びたい分野がある大学の指定校推薦枠を、学力不足で勝ち取れなかったことから、同じ分野の専門学校に行くことになる場合があります。また、３年生になって、家の事情で、大学進学をあきらめ、専門学校や短期大学、さらには就職に進路変更をする生徒もいます。

いずれにしても、大学に興味関心を持たせる大学連携授業は、工学系が１年次から実施しております。進路指導部は、３年生になって、担任と協力して、生徒一人一人に対して、進学指導をしている状況です。工学系の生徒が、専門学校を希望した場合の対応は、現在もしておりますが、なかなか希望を変えられない現状もあります。

今後は、新たに２年生から担任と協力体制を強化するなど、できるだけ、工学系の生徒に対して、親身になって関わり、大学進学の推進を図ります。